

支え合い活動を始めるには？

地域の支え合い活動はなぜ大事なの？



だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

地域では

地域には高齢者や子育て世帯、障がいがある人など、様々な人が暮らしています。それぞれの分野ごとに、暮らしを支える制度やサービスはありますが、環境や世帯の状況が多様化している中、現在ある支援だけでは対応が難しい状況もあります。

だからこそ

住民だからこそのお互いさまの関係性や、住民だから知る地域の強みやアイデアを活かした柔軟な活動が大切になります。それぞれの地域がこれまで続けてきた行事や見守り活動なども大事にしながら、地域の実情に合った、必要な取組が生まれることで、これまで行き届かなかった支援につながります。

そのためには

地域の主役である住民だけでなく、専門職や地域活動に協力する関係機関や企業など、多様な主体と共に地域の課題について考えることで、活動の可能性を広げ、新たな取組が生まれる後押しになります。

地域の支え合い活動では何が大事なの？



大事なのは「あるもの磨き」

支え合い活動は地域の『宝物』です。すでに地域にある様々な取組や活動に新たな機能や視点を加えることで、無理なくその地域らしいになることもあります。「あるもの磨き」から、地域の宝物は輝きを増していきます。

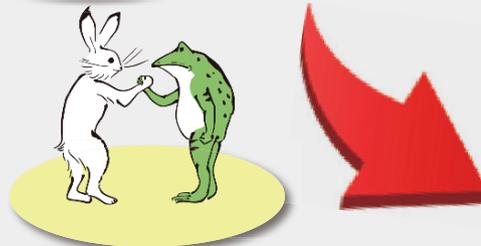
① 宝物探し（出会い・発見）

- ・地域のいいところを見つける
- ・地域の人や団体とつながる



② 宝物磨き（協働）

- ・いいところをさらに伸ばす
- ・地域の「できること」を掛け合わせる



③ 宝物づくり（創出）

- ・活動する人が楽しむことも忘れずに
- ・できることからまず一歩



支え合い活動を始めには？



参考になる事例や活用できる制度などの情報を知ろう

活動が生まれる過程では、課題への気づきや、地域の声をどのように拾ったか、住民・専門職とどのように連携したのかなど、大切なポイントが色々あります。

この冊子では、前半部分で様々な支え合い活動の過程を4つの段階に分けて紹介する事例を、後半部分では活動の立上げや運営を支援する相談窓口や制度、団体等の情報を掲載しています。

冊子前半

立上げ事例の紹介 P3~P20

立ち上げのプロセス

実際の事例を通じて、活動が始まったきっかけや行われた連携、仕組みの内容などを説明しています。また、その取組により、地域にどのような効果が生まれ、人々の暮らしを輝かせているのかを、**くらし**の中での様々な「き」を用いて、4つのステップで紹介しています。

各事例ごとのポイントやエピソードもチェック！

紹介する事例の特徴

- 既存の仕組みへの参加からの活躍
- 被災地支援活動の立上げ
- 企業と連携した地域活動
- 通いの場から広がる支え合い活動
- 互近助パントリー※活動の立上げ
- 楽しむ要素やアイデアから生まれたマップづくり
- 住民主体の認知症カフェの立上げ
- ボランティアグループの立上げと継続
- 生活支援サービス（外出支援）の立上げ

事例紹介ページ

- 近隣の助け合い・支え合い
- 見守り・暮らしのサポート
- 支援活動・生活支援サービス

※くらしき互近助パントリープロジェクト

様々な個人・企業・団体から託された食料品や日用品を活用し、身近な地域で困りごとに「気づき」「受け止め」「寄り添い」「つなぐ」見守り、支え合いの仕組みです。地域の身近なところで、多世代が交流する居場所づくりや地域食堂の開催、見守り、相談のきっかけづくりなどにつながっています。

冊子後半

立上げ・運営に関する支援情報 P21~P28

- 活動に対する相談窓口 【相談や助言について】
- 活動を応援する制度 【支援制度の内容について】
- 活動につながる講座・研修 【知識を得るための講座等】
- 活動に対する補助金 【活用できる補助金の種類】

情報の活用について

活動立上げの際には、目的等によって活用できる補助金や制度も様々であり、相談窓口も異なります。目的によって組み合わせながら、活動の一助にしてください。

情報紹介ページ

制度の内容や対象となる活動、窓口の連絡先など掲載しています！

次のページからは、実際に倉敷市で展開されている事例と、役立つ情報をご紹介します。